



12月1日 暮れの墓地清掃に浄焚会（お焚き上げ）をしました



第 144 号  
(令和 7 . 1 . 1)  
信 楽 寺

〒690-0052  
松江市堅町 88  
TEL (0852) 21-1589  
FAX (0852) 21-1590  
郵便振替口座番号  
01450-3-13538  
山陰合同銀行 本店営業部  
普通預金 No. 3147251  
宗教法人 信楽寺  
代表役員 内田広平

お寺の様子をご覧ください。



HP



Instagram



LINE



目次

しゅしょうえ  
修正会(初参り)  
新年賀会は  
中止とします。修正会は寺族(住職  
家族)にて、大晦日から元旦にかけ本  
堂に於いてつとめます。どうぞ自由  
にお参り下さい。  
正月三ケ日は本堂正面を開けており  
ますので、初参りにお出掛け下さい。

終戦から80年を迎え  
ご先祖、瀧川一益のこと①  
父の最後の教え  
おつぎ奉仕団に参加して  
総本山知恩院にお参りして  
受章の榮譽に浴して  
柳壇  
追善寄付・寄贈図書  
年会費について・令和7年年回表  
令和7年行事予定・定例行事ご案内

住職	楽 誉	2 頁
	瀧川 正靖	3 頁
	須山 淳一	4 頁
	吉岡 利夫	5 頁
	木村喜美子	5 頁
	佐々木滋子	6 頁
	小倉 俊城	6 頁
		7 頁
		7 頁
		8 頁

謹賀新年

令和七年元旦

信楽寺住職 楽 誉 広 平  
副住職 強 誉 量 介  
総代 一同



# 終戦から80年を迎え

「年の暮れには追憶を  
一年の初めには希望を」

幸田露伴

昨年元旦から能登半島地震があり、未だに多くの被災者が苦しんでおられる状況に、1日も早い復興と今年こそ希望に満ちた1年であって欲しいと願わざるを得ません。

今年終戦から80年、昭和100年を迎える年となりました。戦後生まれの私には戦争は過去の出来事と若い時には思っていました。流石に還暦を過ぎた今、たった生まれる17年前の終戦に思いを致すようになりました。

先代住職には7人の兄弟があり、長男さんはノモンハン事件のあったロシアと満州の国境で戦死されます。

先代は兄の亡くなったその場所に慰霊に何回も訪れました。ただただ広野が続くその場所でも、敵の攻撃を隠れる場所も何も無い状況の中、犬死にのうに死んでいった、多くの日本兵、兄の悲しみ苦しみに慟哭して、未だその地にねむる兄への供養



にと念仏を称えました。

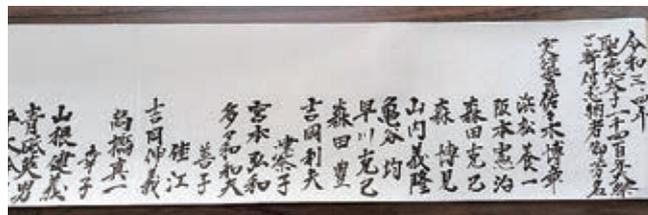
本人は東京の大正大学当時、学徒出陣で戦地に赴きます。あの雨の神宮外苑の行進の中に居たと聞きます。

戦地は小笠原本島に配属となりました。最初に各島配属ごとに整列をさせられ、隣の列には硫黄島の部隊が並び、何かのきっかけで隣に呼ばれ、引つ張られることがあれば、硫黄島玉砕の一人として、この場には居なかつただろうと、常々述懐しております。

硫黄島にも慰霊に訪れ、先号の編集後記で紹介しました、硫黄島で戦死されたお檀家さんの為に、遺骨も何も帰って来なかつた代わりに、せめてもの気持ちと、先代が硫黄島で拾ってきた小石を戦死されたお墓に納骨したのであります。

戦後帰国して、教師となり二足のわらじで信楽寺を支えて参りました。

戦後すぐ、若い男性が少なく、教師が不足していた時代。「デモシカ教師」と言われ、教師デモするか、教師しかすることが無いからと教職に就いたと聞き



今度の太子像のご開帳は46年後の一四五〇回忌法要の時ですが、巻物は半永久的に厨子の下に保存され、何時の日か子孫の方々の目に触れる時があるのではと思っております。

## 聖徳太子一千四百年祭寄付者芳名帳を厨子へ

教師を停年近くまで務めた先代の教師像を未だに想いだし慕って下さる方がおられます。本人は戦争で一旦は死んだ身であり、残りの人生おまけみたいな物、と達観した気持ちを持ち続けていたように思います。それだけ戦地にて苦い思いをしたきたのでしよう。

な理由があつても二度と戦争を起こしてはならない事を、今年には特に訴える1年でありたいと思ひます。

## 庫裏新築工事無事完了

ほぼ4月中旬から解体撤去工事が始まり昨年一杯の工事により、この度無事完成いたしました。

多少周辺の整備工事など引き続きご迷惑をお掛け致します、宜しくお願い申し上げます。

# 一益の先祖、瀧川一益のこと①

たきがわ かずます  
瀧川 正靖



令和6年8月に京都は妙心寺塔頭長興院にご先祖様瀧川一益のお墓参りに行って来ました。

長興院は普段はぶらっと行って入れるところでは無く、仁和寺御門跡からのご案内でお参りする事が出来ました。

実は商社時代の大先輩がアメリカのカーメル市に50数年前に留学していた時にお世話になったお家がこのお話の発端であります。

その留学先の娘さんが日系三世のTaki.gawaさんと59年前にご結婚されて、今初めて日本に来られることとなりました。

大先輩から「あなた瀧川一益と関係あったよね？」と連絡があり、もしも良ければ同行されなにかと言うお誘いと、その大先輩が仁和寺御門跡瀧川大秀師と親戚というご縁など、その仁和寺のすぐ近くに長興院があり、お声がけしていただいたという奇跡が4つぐらい繋がり、お参りが出来ました。



瀧川ご夫妻墓前にて

ではそのお話の前に、瀧川一益につて、どのような武将であったのか少しお伝えします。

戦国から安土桃山時代を生き抜いた武将で、大名として織田信長に仕えました。彼の生涯は1525年に生まれ1586年に亡くなります。

瀧川一益は近江甲賀郡大原出身。織田信長に仕え、「先駆けも瀧川、殿（しんがり）も瀧川」と戦上手を買われて、伊勢征伐や各地の戦に功績を残しました。

一益は、1569年に尾張の蟹江城を与えられ、信長の伊勢征伐に従軍。1575年の歴史的な武田軍との長篠の戦いで鉄砲軍を指揮して武田軍を退け、ついには1582年には武田勝頼を討ち、武田家を滅ぼすなど、各地で功績を挙げ、関東管領となりました。しかし同年の6月2日に「本能寺の変」が起こり、主君、織田信長が死去し、また、跡目を決める清須会議にも、間に合わず、豊臣の世となり、更に豊臣に抱えられ、徳川との戦に敗北して、蟄居し、最終的には越前、現在の福井のあたりで不遇の死を迎えたと伝えられていました。

しかし、なんと歴史上の話とは別に、息子の一忠の子孫は鳥取経由、松江に落ち延びたという話があるのです。信楽寺の瀧川一益の墓については

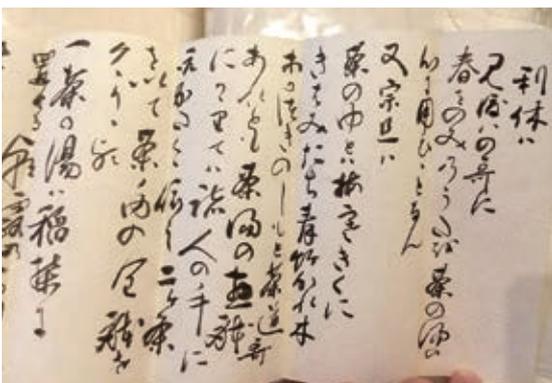


信楽寺著名人の墓石並に碑四  
瀧川一益の墓  
以前より瀧川一益の墓と伝えられる写真の墓について、夫社の史記の編纂者であった齋藤氏は大社の史記で、この墓について述べている。それによると、「一益が秀吉に敗れ、越前大野で命を絶つた。秀吉は一益の嫡男一忠を高野山に追放した。一忠は10才であった。一益は盟友、井筒屋、九郎右衛門に一忠の将来を託した。井筒屋は秀吉の手の及ぶ直前に、井筒屋の代理店である松江の鶴屋へ落ちつかせた。」  
当時、豊臣恩顧の西国武将と家康の東国武士との中には、只ならぬ配が漂っていた。一忠や鶴屋伝十郎は必死に瀧川一益との関係を秘匿していたに違いないと齋藤氏は言う。いづれにしても豊臣の世、そして次の徳川の世で仇となった子孫を狙

松江八百八町にも記載されています。以前より瀧川一益の墓と伝えられる墓について、大社の史話の編集者であった齋藤至氏は大社の史話71号で、この墓について述べられています。

それによると、一益が秀吉に敗れ、越前大野で余生を送った。秀吉は一益の嫡男一忠を高野山に追放した。当時、一忠は10才であった。一益は盟友、井筒屋、九郎右衛門に一忠の将来を託した。井筒屋は秀吉の手の及ぶ直前に、井筒屋の代理店である松江の鶴屋へ落ちつかせた。

当時、豊臣恩顧の西国武将と家康の東国武士との中には、只ならぬ配が漂っていた。一忠や鶴屋伝十郎は必死に瀧川一益との関係を秘匿していたに違いないと齋藤氏は言う。いづれにしても豊臣の世、そして次の徳川の世で仇となった子孫を狙



不昧公から賜った瀧川家への書状

われるのではないかと恐れられた彼らの家族愛が伺えます。  
松江に移り商人となった瀧川は屋号として新屋（あたらしや）を名乗りました。瀧川新屋伝右衛門は、藩札発行を担う重要な商人であり、松江藩の経済史において欠かせない存在でした。  
瀧川は、松江藩の御用商人として蠟燭や高麗人参などさまざまな事業を展開し、藩札の発行所としても重要な役割を果たしました。  
松江の藩主であり有名な茶人でもある松平不昧公からの瀧川への手紙には、茶道を愛する心が込められています。松江の宍道湖畔にある臨水亭があった場所で藩主とお茶を嗜み、宍道湖に上がる花火を楽しんだ記録も残されています。茶道文化の発展に寄与した人物の一面が見えます。

## 父の最後の教え

須山 淳一

2023年の6月のとある月曜日、父が亡くなったとの連絡が届いた。日曜日に横浜から出雲まで見舞いに行った次の日だった。

父の病気の知らせを受けたのは約10年前だった。がんだと知らされた。幸いコントロールも一定出来ているとのことだったが、このとき初めて父の死を意識し始めた。そのため、この10年は父の死という終わりに対して悔いを残さないように考える



家族旅行

ことが多かった。人生初の海外旅行に連れ出したり、孫と会って思い出が作れるように旅行を計画したりした。一方、父もいわゆる終活をやりながらいろいろなことの整理を進めていた。そのような中で、父に対して直接感謝の気持ちを伝えることも出来た。自分も心の準備が出来ていると感じていた。

少し話は変わるが、人間の総合知というものの広がりや昨今目覚ましいように感じる。昔と比べて情報が多くの人間に開かれ、整理され、私達を安心させている。よく言われるように、恐怖とは「知らないこと」だと思ふ。この恐怖に対し科学技術や情報により多くの安堵を手に入れることが、現代の私達は出来ている。

私もそのような総合知を享受している一人であり、父の死に対してもその知を借りて構えていた。いざ、父が亡くなり葬儀が進む中でも父の死は頭では理解できていた。しかし、少し落ち着いた頃になんとも言えない

感情を自分の中に見つけたことを覚えていて。今思えば、これは一つの恐怖だったと思う。たとえ離れていても電話をすれば当たり前前に話すことができ、いざとなったら会いに行けるという「当たり前」が無くなった変化に対する恐怖である。もう少し言えば、人にはどうすることも出来ないことに対する恐怖でもある。

そんな心の澁みを持ちつつも日常は過ぎていき、父の一周忌を迎えた。信楽寺で御経をあげていただいた。その読経を目で追い、南無阿弥陀仏と唱える中で心の澁みが薄らいでいく感触があった。父の死の受け止め方について、光明が差した気持ちだった。それは、情報や技術を持つ（と思っている）現代に生きる私に、遠く情報や技術が無く、あらゆるものに畏敬の念を抱かざるを得ない先人が恐怖に對する敬意と知恵を教えてくれたように感じられるものだった。

生前、父には「あまり調子に乗るなよ」とよく言われた。なんでも自力でなんとかしようとし、情緒よりデータや実績を信じ、目的に突き進むタイプの私

への戒めである。そんな私が最後に父から教わったことがこれだった、と今は思う。自分ではどうしようも出来ないことがあること、それらに処するときには阿弥陀仏の他力本願の願いによって救われるように自分ではない他の何かに救われることもあること、そして、その何かに對して敬意を持つことである。

父の死から一年半ほど経ち、以前と変わらぬ日常を過ごしている。ただ、折りに触れて父を思い返すとき、このことを思い出す。そして、私の中の父が笑って言う「あまり調子にのるなよ」と。



須山家墓前にて

### おてつき奉仕団に 参加して



吉岡 利夫

10月28日、29日朝5時30分南口を出発。

信楽寺、善導寺、誓願寺、東林寺、常念寺、一行36名バス1台で知恩院に、10時には到着しました。

今年は法然上人浄土宗開宗八五〇年の記念すべき年でもあり、心新たな気持ちで参拝させて頂きました。

皆様方と和気あいあいの中結団式、記念写真を撮り、法然上人御影堂参拝し、合掌しながらお念仏を称え、大殿方丈を参拝しました。心とむ思いでした。

昼食をとり、午後は法話（礼拝）お念仏からはじまる幸せのお話を聴きました。お念仏の有り難さを改めて教えて頂きました。

法話の後は奉仕団の目的でもある清掃奉仕の時間となり、廊下の



拭き掃除、柱の雑巾掛けをし、綺麗に致しました。

2日目は5時20分に起床し、先ずは阿弥陀堂にてお念仏を木魚で称えました。一同が称名念仏を揃って唱和、清々しい気持ちになりました。

10時に和順会館を出発し、京都国立博物館へ、10月8日〜12月1日の間、「法然と極楽浄土」を見学して、国宝6件、重文66件を含む法然上人ゆかりの宝物や、浄土教美術の名品が一堂に集結した内容で、皆さん方が一様に感動されていました。

その後井筒八つ橋本舗でおみやげ、期間限定でハロウィンカボチャの生八つ橋が一番人気でした。そして、滋賀県大津市へ行き、紫式部が「源氏物語」を起筆したと言われる石山寺へ参拝し、大河ドラマ「光る君へ」の大河ドラマ館へ入館しました。皆さん満足な様子で昼食をとり、途中休憩をしながら、一路松江に予定よりも早く帰ることが出来ました。

健康で無事にご本山参りが出来ましたこと、有り難く感謝致します。

今回は信楽寺お檀家さんの参加者が少なく来年はもつと沢山の方々と一緒に参加出来ればと思います。

方丈様はじめお世話頂きました皆さまに厚く御礼申し上げます。

合掌

### 総本山知恩院に お参りして



木村喜美子

夜8時から衆議院選挙の開票が進んでいます。

翌朝3時過ぎには起き、まだ開票が続くなか、おてつき奉仕団に参加する為、駅に向かいました。

法然上人43歳の時、浄土宗を開かれ今年で八五〇年の年となります。

まずは南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と廊下を歩きながら合掌の姿で移動。自然とお念仏が身に沁み込む思いがしました。

法然上人御影堂の右隣に徳川家康の厨子があり、その隣には家康のお母様於大の方（実家が浄土宗と説明されました）は一段と大きく、そして秀忠公、家光公御三代の厨子など、言葉には言い表せない品格がありました。

9年間に渡る半解体修理が行わ



れた壮大な伽藍は、金、金、金、一色の別世界の荘厳さに身が自ずと引き締まりました。

翌朝知恩院出発の時、改めて三門を仰ぎ見、自然に頭が下がりました。（二代秀忠公によって建立わが国最大級の木造二重門との説明をうけました）

それから京都国立博物館へ特別展「法然と極楽浄土」の展示を見に行きました。

13世紀〜19世紀、阿弥陀仏の世界、法然とその時代、弟子たちと法脈、日本有数の所蔵品のすべてが展示され、一生見ることが出来ない名宝ばかりでした。

次は今年の大河ドラマ「光る君へ」源氏物語の石山寺に観光に行きました。

大型バスが次から次へとひっきりなしに来ていました。個人的に石山寺は今回で4度めの巡拝ですが、人の多さにびっくりました。

さあこれから帰松です。良い2日間となりました。

.....  
コロナで中止にしておりましたおてつき奉仕団を、久々に開催しました。

朝5時の知恩院は独特の空気感があり、法然上人の聖地としての八五〇年変わらぬ厳かさを感じます。今年は10月27日(月)〜28日(火)です。お参りしなければ分かりません。是非ご予約下さい。(住職)

# 受章の榮譽に浴して

佐々木 滋子



この度令和6年秋の叙勲で図らずも瑞宝双光章の榮に浴しました。この榮譽は決して一人の力ではなく、関係官庁や先輩、同僚の保護司、地域の皆様のご支援・ご指導のお陰と感謝の他ありません。

去る11月14日東京の法務省において伝達式を終え、続いて貸し切りバスにて皇居に参内し、豊明殿にて天皇陛下から労いと励ましの言葉を賜りました。陛下に目近で拝調し私がこの空間に在ることが信じられず、思わず胸に込み上げるものがありました。あちらこちらで目頭を押さえる方の姿もありました。

顧みますと、私が嫁いだ佐々木家は、祖父ニカ、父正道と二代に亘り保護司をしており、父は私に我が家には、罪を犯して更生しようとして頑張っている人が来訪する



からお前も良く知っておいて欲しい。と保護司の仕事について教えられました。何も知識のなかった私が保護司を知ったのはその時からでした。やがて父は75才の停年となり、私に保護司への依頼があり、父の「やってみなさい」の一言で引き受けることとなりました。しかし、実際に対象者を持つてみると、他人の人生と向き合うことの重さに、何度も心が折れそうになりました。

その度に多くの人が温かく背中を押してくださり支えられてきました。私の生き方や保護司として心軸としてきたのは、老僧の教えです。「人間は「我」の殻が破れる必要があります、破れると今まで気づかなかった広々とした世界を知ることが出来る。人は目に見えない大きなものによって生かされている。生きていくことは当たり前ではなく、希有なことでありがたいことだと思われてくる。」と教えて下さいました。保護司と係る人達は、孤独で淋しい環境にありたり、勝ち負けでつい立腹し罪を犯してしまった人達です。このよ

うな人達に接する私自身が豊かな大きな世界を持つて感謝の日々を送っていないければ人には何も伝わ



らないと思いい、日々の暮らし方を見直し、私と係わることによって彼らの「我」の殻が破れ生かされていくことを願ってききました。この気づきが育てば、再犯はきつとなくなると信じています。

11月14日東京はとても暖かい穏やかな秋日和に恵まれ、夫婦二人元気で伝達式と天皇陛下に拝調できましたことは大変幸せなことでした。私は縁あって佐々木家に嫁ぎ、更生保護の仕事に縁を頂き祖父、父、嫁と三代に亘り叙勲の榮に浴したことは、生前私を大変可愛がってくれた義父・母に少しは恩を返せたかと感謝しています。

この叙勲の重みを力に今後も犯罪のない明るい社会作りを努力して参りたいと思います。

\*保護司とは犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアで保護司法に基づき法務大臣から委嘱された人で、給与はありません。

## 柳壇

6月

- ・父の日に何もいらぬと意地をはる
- ・父の日に贈物受取り絆あり
- ・白カベの土蔵を映す田植えかな
- ・紫陽花の梅雨の踊り子七変化

7月

- ・都知事選ユリとハスとの咲き比べ
- ・かかせない物価高でもお中元
- ・雨に濡れ庭の木の葉も生きかえる

8月

- ・猛暑日のセミの共演たからかに
- ・セーヌ川平和の祭典バリ五輪
- ・新時代遊びに見える競技種目

9月

- ・復興中端能登豪雨気うせし
- ・秋風に踊らされる萩の花
- ・今朝の空中秋を知らせるウロコ雲

10月

- ・天高く黄金稲穂刈を待つ
- ・稲実りスズメ集団見え隠れ
- ・柿の実が日ごと色づく秋日和

11月

- ・中秋の霜降りこゆし落葉かな
- ・秋晴れに輝く田園散歩する

## 老夫婦生活

- ・立ち上がり目的忘れまた座る
- ・忘れまいメモした紙はどこだっけ
- ・ごめんねとより戻して膳につく
- ・いい夫婦波たつ前に風を読む
- ・免許証今度が最後と講習会

## 一日一生を生きる

- ・注意書き故障してから読みはじめ
- ・日記帳毎日出来ごと空白なし
- ・生きるには少しの欲がかかせない

小倉俊城

歌壇、俳壇、柳壇、投稿お待ちしています。

### 追善寄付

為 先祖代々追善	金一封	施主 伊藤 益男	為 両親追善	金一封	施主 早川 克己
為 母追善	金一封	施主 森本 恵子	為 母追善	金一封	施主 椋木 豊志
為 母追善	金一封	施主 山仲 元司	為 夫追善	金一封	施主 名和 久子
為 父追善	金一封	施主 古浦 洋右	為 先祖代々追善	金一封	施主 木村喜美子
為 夫追善	金一封	施主 木村智恵子	為 父追善	金一封	施主 白井 丈士
為 父追善	金一封	施主 熊谷 力	為 夫追善	金一封	施主 瀧川千由子

### 寄贈図書

寄贈 松江のスポーツ今昔 施主 松江市立松江歴史館

#### 大野富代氏からの追善寄付



地元出身鋳物師  
遠所長太郎氏作による仏頭



米子市出身  
大原悦男氏作による箔剪画



米子市出身  
大原悦男氏作による箔剪画

## 令和7年度年会費(維持費)納入について

令和7年度年会費(護持費)の払込用紙を同封しております。  
納入は6月一杯を納入期間としております

### 令和七年 年回表

- 一周忌 令和六年(二〇二四)亡
- 三回忌 令和五年(二〇二三)亡
- 七回忌 平成三十一年(二〇一八)亡
- 令和元年(二〇一八)亡
- 十三回忌 平成二十五年(二〇一三)亡
- 十七回忌 平成二十一年(二〇〇九)亡
- 二十五回忌 平成十三年(二〇〇一)亡
- 三十三回忌 平成五年(一九九三)亡
- 五十回忌 昭和五十一年(一九七六)亡
- 百回忌 大正十五年(一九二六)亡
- 昭和元年(一九二六)亡
- 百五十回忌 明治九年(一八七六)亡
- 二百回忌 文政九年(一八二六)亡
- 二百五十回忌 安永五年(一七七六)亡
- 三百回忌 享保十一年(一七二六)亡
- 三百五十回忌 延宝四年(一六七六)亡

## 令和7年 行事予定

行 事	期 日	時 間	場 所	備 考
しゅ しょう え 修 正 会 ( 初 参 り )	お正月三ヶ日本堂へ初参りにお待ちしております。大晦日から元旦にかけておつとめします。		当山本堂	表紙に書きました通り寺族（お寺の家族）でつとめます。どうぞご自由にお参りください。
新 年 会	中 止		当山本堂	
ね はん え 涅 槃 会	2月中		当山本堂	2月15日はお釈迦様がご入滅なさいました涅槃の日です。2月一杯本堂に涅槃図をおまつりします。お参り下さい。
令和7年初めての 早朝墓地清掃	3月16日(日)	午前7時からおつとめ 午前7時半から清掃	当山本堂	まだ寒い時期でしょうが、今年最初の墓地清掃をいたします。
春 彼 岸 法 要	3月20日(木) 春分の日	午後1時半より	当山本堂	皆さんと一緒にお念仏をお称えします。お参りください。
聖 徳 太 子 祭 り	7月22日(火) ～23日(水)		聖徳太子堂	22日は午後5時よりおつとめをいたします。修繕された聖徳太子堂に是非お参りください。夜には書いて頂いた十七条憲法写経用紙で参道を明るく照らします。
墓 地 一 斉 清 掃	8月2日(土)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	お盆前の一斉清掃です。綺麗な墓地にご先祖様をお迎えしましょう。
盆 施 餓 鬼 法 要	8月4日(月)	午前10時	当山本堂	初盆を迎える仏様を皆さんでご回向致しましょう。
棚 経	8月1日(金) ～15日(金)			皆さんのお宅にお参り致します。次号つきかげ発送にお参りの順番を同封し、ご案内申し上げます。
大橋川灯籠流し (松江仏教会主催)	8月16日(土)	午後7時より	宍道湖畔	お盆に還って来られたご先祖様を極楽の世界にお送りする為の灯籠流しです。
地 蔵 盆 お つ と め	8月23日(土) ・24日(日)		豎町灘側 地藏尊	
秋 彼 岸 供 養・ 永 代 供 養 法 要	9月23日(火)	午後1時半	当山本堂	おつとめの後の予定は計画中です。
おてつぎ信行奉仕団 (本山参拝)	10月27日(月) 10月28日(火)		総本山 知恩院	松江を早朝の出発、大型バスにての移動となります。
出 雲 教 区 檀 信 徒 大 会	未 定			
十 夜 法 要	11月3日(月) 文化の日	午前9時半より受付 10時よりおつとめ	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。
出雲教区詠唱大会	未 定	午後より		年に1度の詠唱の大会です。現在人数は少ないのですが、いつでも新入会員をお待ちしております。
今年最後の墓地清掃・ じょう ほん え 浄 焚 会	12月6日(土)	午前7時	本堂正面	浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。

基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

## 定例行事ご案内

## \* ご詠歌の練習 \*



毎月第1・3土曜日  
午後1時半より  
随時新会員募集中



## \* 墓地清掃 \*

毎月第1日曜日早朝  
1・2月はお休みします。  
今年初めての朝掃除は  
3月16日(日)朝7時からです。

## \* 写経会・写仏会 \*

毎月22日 午後1時半より  
写仏も出来ます。字の綺麗さには  
こだわりません。千円の参加費が  
必要です。皆様お待ちしております。

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。詳しくは本堂前の看板にて月行事ご確認下さい。